

住宅マーケットにおける『ハイドア』の歴史

confidential



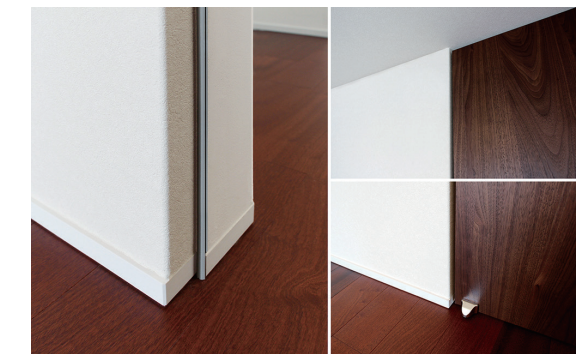
KAMIYA フルハイドア 2005年～

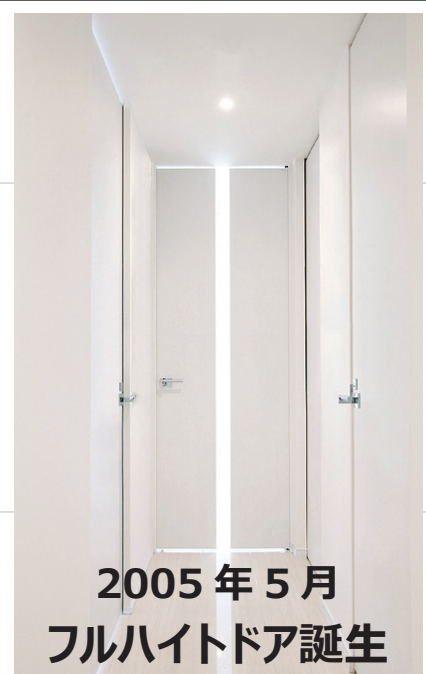
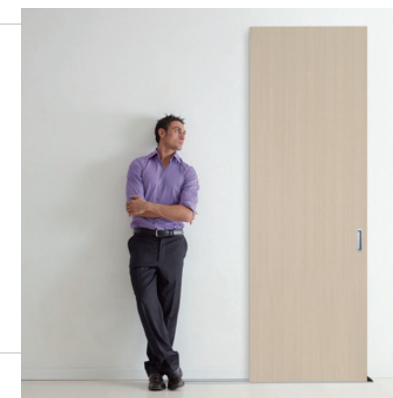



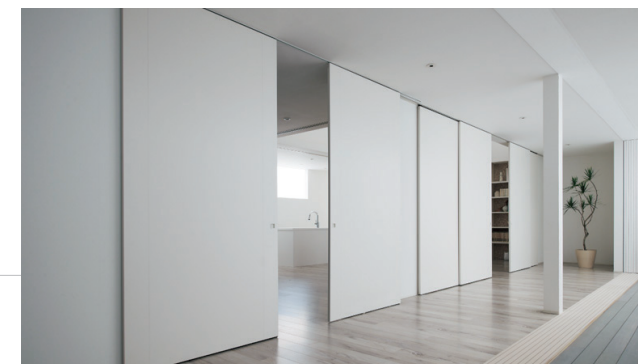
2005年の発表以来天井まである室内ドアの先駆けとして『フルハイドア』をリリース。

当初よりドアの『壁面化』を提唱して出来るだけ枠を見せない規格品の常識を覆すデザインを発表。

それ以来、**多くの建材メーカーが類似品を発表し、現在では殆どの国内メーカーが商品として設定しているが各社とも「枠の存在」を消すことはできず、現在でもこれらのメーカーとは一線を画す存在**となっている。

FULL HEIGHT DOOR®



 <p>2005年5月 フルハイドア誕生</p>	<p>サンワカンパニー ノッポ 2010年2月～ ¥22,300 (小売価格) コスト:★★★★☆</p> 	<p>Panasonic リアロ (現ベリティス) 2012年1月～ 上代価格 ¥85,050 コスト:★★★★☆</p> 	<p>住友林業クレスト ベリッシュ 2013年3月～ 上代価格 ¥59,400 コスト:★★★★☆</p> 	<p>サンワカンパニー ポルレッタ 2015年4月～ ¥39,000 (小売価格) コスト:★★★★☆</p> 
<p>年代</p> 				
<p>AICA スカイハイドア 2009年4月～ 上代価格 ¥83,000 コスト:★★★★☆</p> 	<p>EIDAI アルティモード 2010年4月～ 上代価格 ¥106,500 コスト:★★★★☆</p> 	<p>Panasonic アーキスペック 2012年12月～ 上代価格 ¥117,000 コスト:★★★★☆</p> 	<p>LIXIL ラフィス 2015年1月～ 上代価格 ¥98,000 コスト:★★★★☆</p> 